

## 令和2年度第1回奈良県食育推進会議 議事要旨

- 1 日 時:令和2年8月28日(金)10:00~11:45
- 2 場 所:奈良県文化会館小ホール
- 3 出席者:尾川会長代理、浦辻委員、白樫委員、鈴木委員、高地委員、仲浦委員、松田委員、宮本委員  
傍聴者:1名  
報 道:1名(奈良新聞社)

### 4 議事内容

#### (1) 第3期奈良県食育推進計画の推進について

- 1) 奈良県食育推進これまでの歩み
- 2) 計画の進捗状況
- 3) 今後の取組について

#### (2) その他

### ■概 要

- ・平成17年食育基本法の制定以降、奈良県における食育推進の歩みについて説明
- ・「第3期奈良県食育推進計画」の進捗状況について、基本方針ごとに各数値目標の現状値について評価報告
- ・今後の取組として、県民に健康的な食習慣について認知、周知拡大を図るため実施予定の「やさしおベジ増し宣言」について健康推進課より説明
- ・上記について、意見交換

### ■委員からの主な意見等

#### (1) 1) 奈良県食育推進これまでの歩み (資料1)

第1期の奈良県食育計画は、平成19年度から始まり、これまで10年以上の取組を行っているが、その間、社会背景もかわり、対応すべき食の課題も変化してきた。

#### (1) 2) 計画の進捗状況について (資料2、資料3)

- ・県内全市町村が食育推進計画を策定するのに10年以上かかっている。達成できてよかった。
- ・子どもへの取組課題として、保育所では、「家で野菜を食べないので、給食で食べさせてほしい」、「家では出来合いの惣菜が多くなるので、どうか手作りの物を食べさせてほしい」といった要望がある。家庭環境や家計の状況が大きく影響しているが、「昼食の1食だけでなく、全体で考えないといけない。」とアドバイスする等、実践できるような後押しをしている。
- ・奈良県では、「食農」でなく「食育」としたことにより、市町村の食育推進計画が100%に達成できたのではないか。
- ・市町村食育計画の策定が100%になったことは素晴らしい。計画をたてる→推進する→評価する。このプロセスを市町村がアセスメントしながら進めていくことに意義がある。

- ・たしかに、食育推進計画が作成できたらいいというわけではない。市町村食育推進計画を推進するようなネットワーク的な会議はあるのか。
- ・(→健康推進課)保健所ごとに、食育推進連絡会議を活用し、市町村の取組を共有し推進状況を評価している。市町村計画に基づいた評価ができるよう、市町村にとって身近な保健所での進捗管理が重要と考えている。情報整理をして、会議に情報提供していきたい。
- ・目標値のうち、「主食・主菜・副菜の揃った食事を1日2回以上食べる人の割合」について、若い世代の割合が低いということで、その意味を理解してもらえるアプローチができていたか。何故そうしないといけないのか、どうすれば「主食・主菜・副菜の揃った食事」ができるのか。方法も媒体も今までどおりでは駄目なのではないか。
- ・食育は特に、子ども、子育て世代にどう伝えるかが課題。PTAの勉強会はトレンドに左右され、食育は後々になっている現状。コロナ禍で体重が増加した児童、逆に減った児童もいる。また親の仕事が少なくなり、収入が減り、貧困による食事の問題も出てきている。
- ・スマホを活用し、知らない野菜を調べたり、調理方法を調べたりすることができる。このような野菜を調べるアプリ等を使って、食育を普及させるのもありだと思う。

(1) 3) 今後の取り組み「やさしおベジ増し宣言」について(資料3、資料4)

- (健康推進課より)「やさしおベジ増し」とは、身体にやさしい塩加減で野菜を増やした食事のこと。健康寿命日本一を目指すうえで、全国と比較したときに、塩と野菜に課題があった。近年利用が増えている中食に注目し「やさしおベジ増しプロジェクト」を開始したところであるが、参加協力店が増えないという課題があった。また、3月の各委員からのご意見の中で県民への周知ができていないとの指摘もあったことから、県民、家庭へのアプローチを模索していたところ、「やさしおベジ増し宣言」を進めるとしたものの、
- ・「やさしおベジ増し」だけでは県民に伝わりにくいのではないかと。どのように県民に伝え、理解してもらえるのか。
  - ・「やさしおベジ増し宣言」のターゲットはどこか?どのように周知するのか
  - ・個々にアプローチをするのではなく、県庁の他部署や市町村と一斉に啓発をすることが必要ではないか。どこでも眼にとまるように。タイミングをどうするかも重要、県下一斉にスタートする等の工夫は必要。随時でなく期間限定にすることも効果的ではないか。また、SNSの活用は是非考えていただきたい。
  - ・「やさしおベジ増し」は大テーマとして、副テーマを作ってはどうか。  
例えば、「塩は小さじ1で5g、一日8g以下ですよ」と、具体的に示した方がわかりやすい。「やさしいしお」だけではわかりにくいのではないかと。野菜350gを計って確認してもらうなど、浸透する仕掛けが必要ではないか。
  - ・スーパー等、環境や社会への働きかけも必要ではないか。
  - ・媒体をいただければ、PTA協議会として啓発周知に協力できる。チラシをみて、抽選でプレゼントがあるのは魅力的である。
  - ・「塩」と「野菜」に直接つながらないものがあり、焦点がぼやけないか?

- ・県としては、幟やチラシを作る予算はあるのか？
- ・（→健康推進課）今年度の予算で、ポスターやポップなど、作成する準備を進めている。  
高地委員からのご意見にあるように、情報をだすタイミングなどについてはしっかりと考えたい。
- ・「やさしおベジ増しプロジェクト」に参加する店舗が増えないとのことだが、惣菜を作っている業者へ直接県から減塩と野菜増量をしてほしい旨を伝え、協力してもらえよう働きかけることは可能か。
- ・（→健康推進課）行政としては協力を依頼している状態。行政が指導できるのは法律に基づいたもののみ。今の状況では困難
- ・中食に焦点をあてるより、「我が家のやさしおベジ増し宣言」のほうがいいと思う。コロナ禍では家庭で調理する機会も増えている。
- ・県の広報誌には載せるのか。
- ・（→健康推進課）広報広聴課などと、内部調整はしていく予定である。インセンティブについても検討していきたい。その他、いただいたご意見について検討し、再度相談したい。
  
- ・（健康推進課）コロナ禍で変化する食生活について、参考資料1により説明
- ・緊急事態宣言の時期は、他にすることがなく、食事をつくることしかなかったと思われる。  
販売状況のデータからは、6月は昨年並みの数値にもどっていることから、一時的なことだったのかもしれない。早々に人の食生活は変わらない。野菜摂取量の増加にはつながらなかったと思われる。
- ・各家庭に「やさしおベジ増し宣言」させることが大事。
- ・コロナ禍において、家庭で食事を作っていた事実がある。惣菜の購入が減少しているのは意外だった。
- ・惣菜の利用が増えているというが、私は家庭での調理が増えているのがいいと思った。各家庭に「やさしおベジ増し」を浸透させることが必要。

#### ■終わりにあたり

熱心にご審議いただきありがとうございました。

「やさしおベジ増し宣言」の取組について、賛同、協力をいただいた。細部については、本日のご意見を持ち帰り、検討、実施していきたい。

今後ともよろしくお願いします。